

在職老齢年金

働きながら受け取る厚生年金①

- 厚生年金に加入しながら受け取る年金は、基本月額（A）と総報酬月額相当額（B）に応じて、年金の一部または全額が支給停止されることがある。
 A：年金額（年額）を12で割った額（加給年金、老齢基礎年金、経過的加算は含まない）
 B：標準報酬月額＋直近1年間の標準賞与額の総額を12で割った額
- 60歳時賃金と比べて60歳以降の賃金が低下したことにより、高年齢雇用継続給付を受給している場合は、在職老齢年金による支給停止だけでなく、高年齢雇用継続給付受給による支給停止も加わる。
- 令和3年度までは、退職等により厚生年金被保険者の資格を喪失するまでは、老齢厚生年金額は改定されなかったが、令和4年度から、65歳以上の厚生年金被保険者については、年金額を毎年10月に改定し、それまでに納めた保険料を年金額に反映することとなった。このため、基本月額（A）は毎年10月に改定される（在職定時改定）。

在職老齢年金 （R7年度）

- A+Bが51万円以下ならば、年金は全額支給される。
- A+Bの合計が51万円を超える場合の支給停止額（月額）：

$$(A+B-51\text{万円}) \div 2$$
 ※令和4年度からは年齢にかかわらず上記計算式に統一された。

（計算例）

- ①年金（年額）＝144万円 $A=144\text{万円} \div 12=12\text{万円}$
 標準報酬月額 20万円 直近1年の標準賞与額の総額 60万円 $B=20+(60 \div 12)=25\text{万円}$
 →A+Bの合計額は（12万円＋25万円）＝37万円と51万円以下なので、年金は全額支給される。
- ②年金（年額）＝180万円 $A=180\text{万円} \div 12=15\text{万円}$
 標準報酬月額 30万円 直近1年の標準賞与額の総額＝120万円 $B=30+(120 \div 12)=40\text{万円}$
 →A+Bの合計額は（15万円＋40万円）＝55万円と51万円を超えるので、
 月額支給停止額は（55万円－51万円） $\div 2=2\text{万円}$ となり、
 年金額は15万円－2万円＝13万円となる。